

自然大好き ねいの里だより

63

クロモジ

木々の芽がふくらんでくる頃、森は明るくにぎやかな春を迎えます。枝の先に緑色の葉と黄緑色の小さな花が集まって「舞妓さんの花かんざし」のように見えるのはクロモジ(オオバクロモジ)です。名前は緑色の枝にある黒い斑点が文字に見えること

ようじ・入浴剤に変身

に由来していると言われています。小枝を手で折ると良い香りがするこの枝を使ったようじは「黒文字」です。

といわれ、お客さまをもてなす時に和菓子に添えられてきました。彫刻刀などで枝を削り、好みの横様に樹皮を少し残すようにするとようじは簡単に作れます。さらに、使う前に湿らせると香りと色が染しめます。また、入浴剤や薬、アロマの精油などにも利用されています。し、小枝をお湯で沸かすと赤みを帯びた香りの良いすっきりとした味のお茶ができて

(野澤和子)



花かんざしのようなクロモジの花



クロモジで作ったようじ